

2023 年度秋季大会実施報告書

大会・企画委員会, LOC (海洋研究開発機構)

秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2023 年度秋季大会は、横浜市のパシフィコ横浜アネックスホールにおいて、10 月 31 日 (火)～11 月 2 日 (木) に開催され、774 名 (会員 612 名, 非会員 162 名) の参加がありました。2023 年 5 月 8 日に新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の感染症法上の位置付けが「5 類」に移行したことを踏まえ、パンデミック以前と同じ方式での開催となりました。今年度の秋季大会では、通常セッションに加え、「情報科学との融合による地震研究の加速」「能登半島北東部の群発地震と M6.5 の地震」「大正関東地震から 100 年：関東地方における地震研究の展開」の 3 件の特別セッションが開催され、活発な議論がなされました。なお、プログラム確定後の講演発表数は口頭 225 件、ポスター 164 件の合計 389 件でした。

また、日本地震学会賞、論文賞、若手学術奨励賞の授賞式および記念講演も行われました。日本地震学会賞 1 名、および若手学術奨励賞 3 名の受賞者による記念講演については、大会 1 日目の午後に設けました。大会 3 日間ともに 4 会場同時並行で口頭セッション (受賞記念講演を除く) を行い、口頭発表の時間は原則として 1 件あたり 15 分 (講演 12 分、質疑 3 分) としました。なお、ポスターセッションは 1 日目と 2 日目の口頭セッション終了後にコアタイムを設けて実施しました。

講演申込、早期参加登録と、参加登録料及び投稿料の支払いはウェブサイト上で受け付けました。今年度も現地の受付周辺での密を回避するために、参加者に名札を印刷・持参して頂く方式としました。また、講演予稿集は電子版のみとし、早期参加登録をして頂いた会員には、予稿集ダウンロードのための URL とパスワードをプログラム公開時期にあわせて連絡しました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」を設けました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象としました。今年度の審査員には理事、代議員、大会・企画委員会委員から 37 名が選出され、のべ 85 件の発表を審査しました。選考の結果、9 名の受賞者を決定しました。

秋季大会の準備、運営面では、海洋研究開発機構の地震学会員からなる LOC の皆様に全面的にお世話になりました。LOC の皆様の献身的なご尽力により、横浜大会が円滑に運営されたことに、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。

さて、来年度の秋季大会は新潟市の朱鷺メッセにおいて、

2024 年 10 月 21 日 (月)～10 月 23 日 (水) の日程で開催される予定です。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様のご協力に感謝申し上げます。

LOC からの報告

1. 秋季大会

2023 年度の秋季大会は、昨年度に引き続き現地開催となりました。海洋研究開発機構に所属する学会員の有志で LOC を引き受け、2021 年度から、通常通りの現地開催を前提として、開催日程の検討や会場選定の作業を始めました。

横浜は大都市圏に位置するため、例年比での会場費の高騰が避けられません。また、一見、開催に適した会場の候補が多い土地であるように思われがちですが、地震学会のニーズに合う会場はそう多くありません。会議室の借用は費用面で折り合わず、一方で市内の大学での開催の場合は当該年度にならないと日程が確定できないという課題がありました。また、2013 年度大会にて利用した施設からは、学会利用不可との連絡があり、地震学会の予算規模に見合った会場探しは困難を極めました。ただし、関東地震から 100 年の節目にあたることから、横浜を開催地とすることにこだわりました。結果的に、例年に比べて A,B 会場の定員が減少するものの、「パシフィコ横浜アネックスホール」を分割して利用し、ポスター会場をフォワイエに設置することに決定しました。

しかしこの決断は、皆様の参加費の値上げを伴うものでした。LOC としては、可能な限りの費用軽減・値上げ幅の減少を図るため、クロークの設置を諦め、コインロッカー等の会場ファシリティを利用いただくこととしました。このため、特に初日や最終日には、荷物の扱いに困られた方もおられたかと思います。一方で、横浜観光コンベンション・ビューローと密に連携をとることで支援助成金の受給を実現するとともに、自分たちの努力次第で可能な経費削減を行うこととしました。具体的には、LOC メンバー外を含めた海洋研究開発機構の学会員を多数動員し、(1) 前日準備の時刻を借上料金が安価な夜間帯に実施、(2) 口頭会場に映像・音響オペレーター配置を依頼せず、研究者自身が研修を受けた上で会場のオペレーターを代行、(3) 最終日の撤収作業への大人数の投入による時間短縮、の 3 項

目を実施し、85万円以上の経費削減を達成しました。これは学会員が多数在籍する海洋研究開発機構ならではの対応ではありますが（一方で学生がいないため、研究者自身のみで対処しなければいけない環境でもあります）、会期中、自身の学会参加よりもスムーズな運営の実現を優先し、会場で動き回っていた研究者達の姿に免じて、参加費の値上げやクロークの不備の件はご了承いただければと思います。

また、本大会での創意工夫として、セッション間でのスライドショーの放映を実施しました。大会関連のイベントや注意事項の周知や団体展示の宣伝、および横浜観光コンベンション・ビューロー提供の動画再生を実施しました。実際にどの程度の効果があったのかを測る指標はありませんが、情報発信や、座長アナウンスの長文化に伴う進行遅れの軽減には役に立ったものと思います。さらに、団体展示の出展料も値上げせざるを得なくなったことから、各団体の展示がなるべく数多くの会員の目に触れるよう、展示場所をポスター会場の1つと一体化させ、A会場をあえて最奥にするという工夫を行いました。さらに、本大会の開催を広く周知するために、10月16日に、オンラインにて記者説明会を実施しました。横浜市・神奈川県および文部科学省の記者クラブ等へ情報を展開し、8社の参加がありました。結果的に、本大会では例年を上回る31名の報道関係者の参加登録があり、特別セッションを中心とした取材・報道につながりました。

今大会は、コロナのことを過度に気にする必要なく開催できたため、コロナ禍以前と同様の運営としました。口頭発表とポスター発表のコアタイムを分ける形に戻しましたが、ポスター会場を3ヶ所に分散し、設置間隔を拡げるなど、設計自体にゆとりを持たせることで、ある程度は混雑も避けられたと思います。そして、4年ぶりに懇親会を開催しました。コロナの影響で参加人数が読めないところ、当初の予定だった定員100名を大会初日で突破したため、122名まで増やすことにしました。そのため、店内での座席を確保することが困難だった方もいらっしやったかと思いますが、横浜の夜景を眺めながら多くの参加者との交流を深める機会となったのであれば幸甚です。このように、イベントを含めた現地開催の完全復活を果たすことができたことは、地震学会にとって明るいニュースになりました。

参加者の皆様のご協力のおかげで、大きな混乱もなく、無事に3日間の会期を終えることができました。次年度以降も、今年度の良かった点を引き継ぎつつ、改善すべきことは改善し、多くの会員同士が活発に議論・歓談できる機会として、秋季大会がさらに活性化していくことを祈っています。

2. 一般公開セミナー

2023年度の一般公開セミナーは、日本地震工学会との共催で、秋季大会翌日に「はまぎんホール ヴィアマーレ」において、以下の通り開催されました。なお、当日の参加者数は121名（事前のウェブ登録者数142名中102名が参加、当日登録者は19名）でした。

タイトル：「関東大震災から100年 —過去を学び、将来に備える—」

日時：2023年11月3日（金・祝）13:00-16:00

場所：はまぎんホール ヴィアマーレ

主催：日本地震学会、日本地震工学会

後援：横浜市

協力：京浜急行電鉄株式会社、横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校、白山工業株式会社

内容：

・第一部

●基調講演

「関東地震と横浜の被害」

翠川三郎氏（東京工業大学）

●特別講演

「関東地震の地震像と首都直下地震」

酒井慎一氏（東京大学）

「地殻変動から探る過去の関東地震と将来の大地震」

野田朱美氏（気象庁気象研究所）

・第二部

●パネルディスカッション

「切迫する首都直下地震にどう備えるか —産学官の取り組み—」

コーディネーター：小平秀一氏（海洋研究開発機構）

パネリスト：島村昭一氏（京浜急行電鉄）

：川島正裕氏（横浜市）

：田川貴章氏

（横浜サイエンスフロンティア高校）

今年度の一般公開セミナーは、100年前の関東地震の被害を振り返り、どのような教訓を得たのか、そして首都直下地震にどう備えるべきかについて、地震や防災の専門家と一緒に議論する機会を市民の方々に提供することを目的としました。

冒頭に小原一成会長から、日本地震工学会との連携で地震被害の軽減に向けた具体的な議論を期待する旨の挨拶がありました。第一部の講演では、関東大震災をもたらした地震の姿と被害、その後の研究で地震がどのように見えてきたか、そして将来に向けてどのような予測が行われているかについて、3名の講師の方からそれぞれわかりやすく

ご紹介いただきました。各講演後には会場から多数の質問があり、休憩時間にも講演者と活発に議論をする様子が見られました。第二部のパネルディスカッションでは、本セミナー開催地の横浜を拠点とする産学官それぞれの組織から、防災を担当するパネリストをお招きして、各組織の地震防災の取り組みを紹介していただくとともに、産学官の連携や課題への対応について建設的な意見交換を行いました。閉会挨拶の中で、日本地震工学会の高田毅会長から、産学官が現場で抱える課題や懸念の対応について、学会を大いに利用していただきたい旨の発言がありました。

また、会場ロビーではパネル展示（横浜市、京浜急行電鉄、横須賀海洋クラブ、日本地震学会、日本地震工学会）を行うとともに、白山工業株式会社の協力を得て可搬型地震動シミュレーター「地震ザブトン」の体験会を開催しました。「地震ザブトン」の体験会は、順番待ちの行列ができるほどの盛況ぶりでした。一般公開セミナー参加者に率直な感想を尋ねたところ、100年前の横浜の被害を初めて知ったことや、横浜市の被害想定の見直し方法が分かってよかったなど、おおむね好評な意見が多数でした。

秋季大会、および一般公開セミナーの開催にあたり、諸大学の院生・学部生による会場アルバイトの皆さんにご協力頂きました。彼等の助けなくしては、今大会を円滑に実施することはできませんでした。海洋研究開発機構そのものに所属する学生はいないため、多くの大学教員会員にアルバイト募集にご協力いただきました。そのおかげで、最終的に十分な人数を集めることができました。開催準備から大会運営までご尽力頂いた学会事務局、大会・企画委員会をはじめ、参加者の皆様、関係各位にも、深く感謝申し上げます。今年度の一般公開セミナーは日本地震工学会と

の共催としたことで、日本地震工学会の関係各位に準備段階から当日の対応まで継続的にご支援をいただきました。また、公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューローの皆様には、会場選定・支援助成および行事の広報活動を中心に、パシフィコ横浜およびはまぎんホールのスタッフの皆様には、円滑な運営に向けた準備や当日の対応について、それぞれ多大なご協力をいただきました。末筆ながら、記して感謝いたします。

海洋研究開発機構 LOC：

小平秀一、山本揚二郎、海宝由佳、藤江 剛、利根川貴志、飯沼卓史、松本浩幸、大林政行、田中 聡、新井隆太、有吉慶介、縣亮一郎、堀 高峰

○出展団体（順不同）

株式会社 勝島製作所

一般財団法人 東京大学出版会

株式会社クレアクト

株式会社 ホームサイズモメータ

株式会社 ジオシス

JAMSTEC 海域地震火山部門

イネープラー株式会社

白山工業株式会社

株式会社 東京測振

シュプリンガー・ジャパン

サイズガジェット

東京大学地震研究所

SmartSolo

Progress in Earth and Planetary Science (PEPS) 誌

地球掘削科学 JAMSTEC/J-DESC